



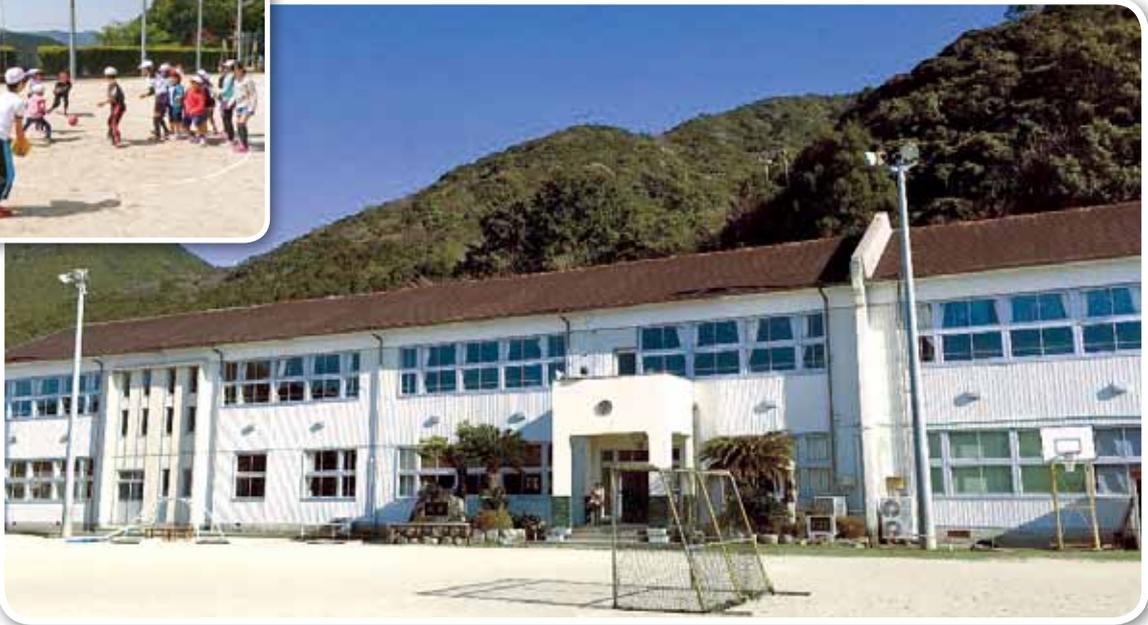
校長会



No.40

三重県小中学校長会 広報 第40号

●発行●三重県小中学校長会 津市桜橋 2-142 三重県教育文化会館内 TEL 059-227-7011 E-mail info@mie-kochokai.com
●編集●三重県小中学校長会 広報委員会 ●印刷●光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TEL 0598-29-1234



私の学校づくり



尾鷲市立三木小学校

校長 内山 志貴子

元気だ！三木小をめざして

「子どもも職員も一緒です。朝学校へ来たら、元気のよい挨拶が飛び交う学校にしましょう。」私が、まず子どもと教職員に話した言葉です。

全校児童十九名の極小規模の学校ですが、運動場の投てき板に『元気だ！三木小』と書かれているように子どもたちは、元気いっぱいです。子どもたちは朝七時三十分頃から登校し始め、遅くても七時五十分にはほぼ全員登校し、すぐに運動場に出て来ます。私も児童玄関で子どもを迎えます。進んで挨拶をする子、昨日のことをうれしそうに話す子、心配事を元気なく話す子等様々で、それを担任に繋いだり、全教職員で共有したりして子ども理解に努めています

本校では、年間を通して様々な運動に取り組んでいます。今、運動場では朝早くから、五十メートルを何本か走り、一学期の重点組である「一輪車」の練習を熱心に行っています。この後、ドッジボール、水泳（遠泳）、マラソン、縄跳び等にそれぞれの目標を立てて取り組み、体力・粘り強さ・達成感を培っています。その子どもたちもチャイムが鳴るとさっと気持ち切り替え、授業に集中して取り組めます。何事にもまじめにがんばる姿勢をこれからも大事にしていきたいと思えます。

地域とともに

本校には、保護者・地域と強く結びついた行事「夏・冬の子ども学校」があります。今年度で三十五年続く伝統の行事です。特に夏は、漁業の町にふさわしく、遠泳、定置網体験、干物づくり、筏レース等盛りだくさんの内容で行っています。これらは、保護者・地域の方に絶大な支援・協力を得ての行事です。海の豊かな自然と漁村での知恵と技を学び、人とのふれあいを通して、地域の良さを知り地域に誇りを持つ子どもの育成を、地域とともに進めたいと考えています。

会長挨拶

「学校からの教育改革」の推進



三重県小中学校長会
会長 加田 普 士

会長就任を機に、改めて本会の目的を確認いたしましたら、「会員相互の緊密な連携によって、小中学校に共通する諸課題の解決につとめ、本県義務教育の振興を図る」とありました。その趣旨に沿って、今年度も引き続き、提言する

校長会であるとともに、学校現場から教育改革を進めるといった姿勢のもと、県民の信託に応えていきたいと考えています。そのためにも、会員の皆様方のお力添えを切にお願い申し上げます。

今年度、三重県小中学校長会として、取り組むべきこととしては、第一点目は、国の動きに対する対応であります。具体的には、平成三十年に「道徳の教科化」として教科書を使った授業の全面実施。平成三十二年には「小学校英語の教科化」・「高大接続改革による、新たな大学入試制度の導入」など、明確なタイムスケジュールが示さ

れました。そして、早くも次期学習指導要領改訂への動きが始まっております。さらには、新たな「教職員定数改善計画案」も示され「チーム学校」の考え方も具体的に出来ました。

このように、教育の大きな改革が行われようとしているなかで、私たち校長は、いち早く情報収集に努め、学校経営に生かしていかなければなりません。

二点目は、三重県の教育における諸課題への取組であります。喫緊の課題である「学力の向上」について、昨年度は校長会として積極的に手立てを講じることと提言し、全会員の熱い思いのもと取組を前進させることができました。今後も、子どもたちが課題の解決に向けて主体的・協同的に学ぶ姿が見られるような、授業改善の実践を、校長自らが提言していくことで、真に求められる学力

向上に結びつけていくことが必要だと思っています。

さらには、「新たな人事評価制度」「新しい職の設置」の導入について、学校経営の観点から、情報交換を密にして、改善点も提示していきたいと考えています。

また、「土曜授業」については、負担だけが増えないように総勤務時間の縮減と合わせて、より良い方向性を見出していかなければなりません。

そして、未来社会を担う人材である子どもたちに、社会を生き抜く力を確実に育成するために、校長として明確なビジョンを持ち、リーダーシップを発揮して、積極的に教育改革に取り組んでいかなければなりません。

話題は変わりますが、私たち校長は、経営能力や管理育成能力を問われることから、様々な経営者から学ぶ機会も多くあります。そのなかで、経営といった視点で今年の東京箱根駅伝は興味深く振り返ることができました。少し紹介をさせていただきますと、青山学院大学が創部九十六年目にして初優勝を遂げ、監督の手腕に注目が集まりました。監督は就任時に自分か思い描いたプランを発表していますが、そこでは三年から五年で予選会を突破して箱根駅伝に出場させる。八年後にシード権を獲得させる。そして十年後に優勝を争えるチームにする。といったビジョンを示し、実行するためにまず一年で何を考えるかを考えました。専用のグラウンドもなく、決して恵まれた状況ではなかったにもかかわらず、出来ることを探して取り組んだそうです。ところが三年目でも予選で十六位と惨敗で陸上部解散の危機に迫られました。そのような状況の中でも、情熱を燃やして一貫していたのは、大学生を社会人としても通用する人間に育てる。そして、厳しい練習を課すために、どんな目的で行うのかを選手に理解させることでした。結果として五年目に予選会を突破して箱根駅伝に出場し、その後二年でシード権を獲得しました。そして、監督就任十一年目での今回の優勝を成し遂げました。監督は、「苦勞をしたのは、箱根駅伝に出場するまでで、何事も土壌づくりが大変で軌道に乗ってしまえば、それほど苦勞はいらなかった。」と語っています。

明確な目標を掲げ、きちんと筋道をつけることで目標に近づけることができる。「やりきる覚悟」が大事だと改めて感じさせられました。今年一年、代表者会を中心に意見を集約させ、連携をとって教育課題の解決と三重県の教育の充実に向けて全力で取り組んでまいりますので、ご協力をいただきますようお願いします。

平成二十七年

三重県小中学校長会

役員及び監事・事務局

会長 (兼中学校部会長)

加田 普 士・楠中

副会長 (兼小学校部会長)

森 田 正 美・養正小

副会長 (兼小学校副部会長)

藤 井 光 照・丹生川小

副会長 (兼小学校副部会長)

高 木 学・国府小

副会長 (兼中学校副部会長)

鏡 仁 治・嬉野中

副会長 (兼中学校副部会長)

北 村 吉 洋・大宮中

幹事 (兼小学校幹事)

西 田 尚 史・射和小

幹事 (兼小学校幹事)

濱 田 嘉 昭・新居小

幹事 (兼小学校幹事)

樋 口 巧・三木里小

幹事 (兼中学校幹事)

中 川 博 文・関中

幹事 (兼中学校幹事)

川 合 陽 一 郎・橋北中

幹事 (兼中学校幹事)

市 橋 秀 介・赤目中

監事

片 岡 博・竹永小

田 中 康 裕・阿山中

事務局長 中川 正 学

事務局次長 大西 典 子

事務局員 宮 田 典 子

委員会報告

学校経営委員会

委員長 長井一哉



本年度も早や、一学期のまとめの時期が目前に迫ってまいりました。各校では年度当初の組織や計画づくりから始まり、五月、六月には様々な取組を推進してきていただいております。そうした中で、大小それぞれとは思いますが、多くの課題に直面されてきたのではないのでしょうか。そうした課題に対して、現状を見据え、悩みながらも方向性を定めて、学校の経営をすすめていただいていることと存じます。

この学校経営委員会では、より円滑に学校経営がすすめられるよう、県教委の施策立案や予算編成への意見集約をさせていただきました。ご協力ありがとうございました。これを県教育委員会に伝え、学校経営上での課題解決に有効な施策や予算編成がなされるよう働きかけていきます。

一、活動方針

(1) 小中学校教育の充実発展に関する施策並びに予算要望活動を行います。

(2) 昨年度の要望活動を踏まえ、例えば、子ども・保護者・地域・教職員から具体的な声を上げていきます。

二、活動計画

(1) 意見要望の取りまとめ

五月 各理事に意見集約を依頼
六月～七月 集約された意見の整理。

八月 平成二十八年度「要望事項」のまとめと「解説書」の作成。本部役員会に提案報告。

(2) 要望活動

九月に県教育委員会事務局各課に対して、まとめあげた意見要望を伝えます。

また、各都市の校長会の先生方には、地元選出県議会議員への要望活動もお願いします。

進路指導委員会

委員長 橋本弘司



第一回進路指導委員会において、進路指導に関する「要望書」作成の焦点化と入学者選抜制度の意見交換を再度ゼロから進めていくことの確認を行いました。今後各都市校長会・各学校での協議や関係機関との協議等をさらに進めていただきますようよろしくお願いいたします。以下に今年度の活動方針と活動計画を示します。

一、活動方針

(1) 児童生徒理解を深め、個性の伸長を図り、自己実現を目指す進路指導を推進します。

(2) 県内各小中学校間の情報交換に努めます。

(3) 三重県教育委員会・三重県高等学校長協会・三重県私立協会・関係諸機関と協議し、現行入学者選抜の課題や入学者選抜制度、高校活性化問題等の改善に努めます。

(4) キャリア教育について研修に努めます。

二、活動計画

(1) 五月二十六日(火)

① 進路指導に関わる要望書の作成

② 現行入学者選抜制度の課題

(2) 六月十八日(木)

① 進路指導に関わる要望のまとめ

② 現行選抜制度の具体的な検証

(3) 七月十六日(木)

① 要望書への県教委回答と質疑

② 現行選抜制度の具体的な検証

(4) 九月十七日(木)

平成27年度 三重県小中学校長会・理事一覧

郡市名	小学校理事		中学校理事	
	名前	所属校	名前	所属校
桑名郡市	野呂はるみ	伊曾島小	土屋 晃	明正中
いなべ市・員弁郡	中村 豊樹	三里小	辻 哲哉	東員第一中
四日市市	市川 則文	中部西小	柴田 一	三重平中
三重郡	加藤 誠治	川越南小	北口 幸弘	八風中
鈴鹿市	伊藤 行輝	玉垣小	中道 公子	白鳥中
亀山市	浅熊 美典	白川小	西 秀人	中部中
津市	落合 正史	豊が丘小	長井 一哉	西郊中
松阪市	稲葉 義彦	港小	川口 朋史	三雲中
多気郡	杉山 芳弘	修正小	福島 紅葉	大台中
伊勢市	田端 正勝	二見小	中村 泰彦	港中
度会郡	掛橋 純	下外城田小	早川 昌行	度会中
鳥羽市	小野 礼子	弘道小	池田 榮	答志中
志摩市	太田 敏彦	和具小	市川 和利	浜島中
伊賀市	山森 義祥	阿山小	西井 正和	柘植中
名張市	谷戸 実	薦原小	福田 徳生	桔梗が丘中
尾鷲市	坂上香恵子	向井小	内山 亮	輪内中
北牟婁郡	寺西 穂	船津小		
熊野市	辻 幸浩	五郷小	山本 浩嗣	御浜中
南牟婁郡	下 敏朗	神山志小		

平成27年度 研究大会

★第52回三重県小学校長教育研究大会

- 日時 平成27年7月30日(木) AM:全体会 PM:分科会
- 会場 <全体会> 三重県総合文化センター 中ホール
<分科会> 三重県総合文化センター内各会場
三重県総合博物館レクチャールーム
- 研究主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く
日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
—豊かな未来を切り拓き、夢に向かい、
共に生きる子どもが輝く学校経営の推進—
- 講演会 講師: 三代目 林家菊丸
(公社)上方落語協会
(株)よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属
演題: 『師弟愛と弟子修業の大切さ』

★第52回三重県中学校長研究大会

- 日時 平成27年8月20日(木) AM:全体会 PM:分科会
- 会場 <全体会> 三重県男女共同参画センター 多目的ホール
<分科会> 三重県総合文化センター内各会場
三重県総合博物館レクチャールーム
- 主 題 「社会を生き抜く力を身に付け、
未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」
- 記念講演 講師: エス・イー・アイ株式会社
代表取締役 澤井岳彦
演題: 『〈未定〉』

生徒指導委員会

委員長 早川 昌行



学校における児童生徒のいじめ、暴力行為等の生徒指導上の課題は依然として憂慮すべき状況にあります。また、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しており、保護者の児童虐待が全国的に多発しています。さらに、携帯電話、スマートフォン等におけるトラブルが増加し、その対応が急務となつてきており、ネットモラル教育の一層の推進が必要です。

今年一月に出された「スマートフォン等の使用に関する実態調査」によると、自分専用の携帯電話やスマートフォンを持ち始める時期が低年齢化しており、小学校段階から児童への指導を行うとともに、フィルタリングの重要性や、家庭

- ① 選抜制度の抜本的な改善
- ② 選抜制度についての意見交換
- (5) 十月八日（木）
- ① キャリア教育の視点に立つ研修
- ② 選抜制度の抜本的な改善
- (6) 十一月十二日（木）
- ① 本年度活動まとめ
- ② 次年度への課題

でのルール作り等、保護者への啓発の必要性が報告されています。

生徒指導委員会では、これらのことを踏まえ、昨年度の課題を検討し、次のような活動方針・計画を策定しました。各中学校長のご協力をよろしく願います。

一、活動方針

- (1) ネットモラル等の生徒指導上の諸課題の早期解決に向けた支援の在り方を追求する。
- (2) 地域及び関係機関との連携を密にし、相互の交流を深め、安全・安心な学校づくりに努める。
- (3) 県内の各小中学校間の情報交換に努める。

二、活動計画

- (1) 生徒指導委員研修会
- (2) 十月二十七日（火）実践交流会
*「実践交流会」では、郡市各校長会に「実践校・二校」の発表をお願いすることになります。
- (3) 生徒指導委員会の在り方について、今後とも検討をしていきます。

特別委員会

委員長 落合 正史



先日、全国連合小学校長会総会に参加する機会をいただきました

た。東京に集った各都道府県の理事や代議員の方々と会い、日々山積する教育課題と向き合い努力を重ねてみえる多くの仲間が存在を、改めて心強く思いました。

総会後、文部科学省から行政説明がありました。様々な教育改革や教育施策も子どもたちの将来を考え、学校現場の実態をふまえ、校長の声に耳を傾けながら進める姿勢を大切にしていることを感じました。

私たちは、子どもたちの幸せのために施策はどうあるべきか、働きやすい環境をつくるためにはどうすればよいかを考え、三重県教育委員会と十分議論ができる組織として活動を進めていきたいと考えます。

一、活動方針

- (1) 子どもたちの学力向上をめざし、施策の動向を注視するとともに、各市町や各学校の取組を把握しながら議論を深め、課題を整理して、展望を含めた方向性を提言します。
- (2) 多岐にわたる校長の勤務状況把握し、多忙な勤務実態による健康管理の不安や処遇面の課題等について検討し、改善に向けた今後の方向性を提言します。

二、活動計画

- (1) 学力向上部会では、「みえスタディ・チェック」や「ワークシート」等を活用した学力向上の取組や県教育委員会による学校訪

問、支援活動等の施策について検証し、よりよい施策のあり方について県教育委員会と話し合います。

- (2) 処遇改善部会では、「新たな人事評価制度」の試行を通して本格実施に向けた課題を検討するとともに、「新しい職」の設置状況や「土曜授業」の実施状況等をふまえて課題を整理し、その改善に向けて県教育委員会と話し合います。

広報委員会

委員長 中村 泰彦



新年度が始まったかと思えば、短かった春が過ぎ長い夏が訪れました。夏休みを前に、忙しい毎日をご過ごされておられることと思います。

去る四月十六日に第一回広報委員会を開催し、昨年度の活動の成果と課題をもとに、本年度の活動方針・活動計画について協議し、以下のように決定しました。

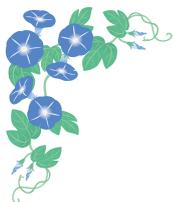
一、活動方針

- (1) 広報活動をとおして、会員相互の連携意識の更なる向上を図る。
- (2) 会員の声を幅広く掲載するとともに、写真を充実させ、親しめる紙面づくりに努める。
- (3) 年三回発行し、情報提供に努める。

二、活動計画

- (1) 七月、十二月、三月に会報を発行する。
- (2) 編集内容は、①「私の学校づくり」②「今日的課題の克服に向けて」③「特別寄稿」④「新任校長の声」⑤「ちよつとい話」⑥「あの時、あの人」⑦「私の薦める一冊」⑧「随想」⑨「研究会大会参加報告」⑩「地区校長会だより」⑪「本部役員だより」とする。
- (3) 紙面構成は、八面・カラー印刷。
- (4) 会員への執筆依頼は、当該地区の理事を通じて行う。

私たち広報委員会は、日ごろから校内外の様々な課題と向き合い、奔走されておられる校長先生方に、紙面を通じて一息ついていただくとともに、情報交換の場として各校の実践や郡市校長会の活動の様子など十一項目にわたる内容をお伝えし、三重県小中学校長の連帯感を深めて参りたいと考えております。原稿執筆していただきます校長先生をはじめ、皆様のご協力をお願いします。



特別寄稿

三重県教育委員会
学校教育担当次長 山口 顕



三重県小中学校校長会の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、本県教育、とりわけ小中学校教育の充実・発展に日々ご尽力いただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、ICTの飛躍的進展に象徴されるように、将来が予見しがたく、所与の答えがない、答えやそこに至るアプローチも一つでないといった時代に突入しつつあります。そうした中で、自分らしさをしっかり持ちながら、自他を尊重して支え合い、協働して課題解決に取り組み、未来を創造していく力が求められています。

いわゆる学力三要素の中でも、高大接続改革や次期学習指導要領改訂に向けた中教審諮問にも見ら

れるように、いわば葉っぱ（知識・技能）の部分よりも、幹（思考・判断・表現力）、さらには根っこ（主体性・多様性・協働性）の部分にこそ、重きが置かれつつあります。全国学調にしても、児童生徒や学校への質問紙の部分こそ、本質的かつ実践的なヒントが満載の宝の山だと言えましょう。

多くの大人や仲間たちとの触れ合いなど、あらゆる機会を通じて、たとえ一つ一つは小さなものでも、成功体験の積み重ねに基づく達成感、自己肯定感をいかに高めていくかが、私たち教育関係者に課せられた大きな使命だと考えます。

しかしながら、家庭や地域における教育力やつながりの低下等を背景に、学校教育へのニーズは複雑・多様・高度化しており、今や学校だけで適切に解決し切れることには限界があります。例えば、OECDの調査（TALIS）でも、日本の中学校教員は週五十四時間仕事をしており、国際平均より十六時間も多いものの、その半分は部活であり、かえって授業時間は国際平均よりも短く、教材研

究を含む授業の充実・改善に十分なエフォートを割くことができていない実態が示唆されています。

加えて、少人数教育、特別支援教育、外国人児童生徒教育の充実や生徒指導への対応など、諸課題に柔軟に対応し得る手立ての一つとして加配があるわけですが、国の財政関係諸会議では、少子化に伴う機械的な対応として、加配部分にまで合理化計画の波が押し寄せてきている危機的な状況です。

そうした中、防災や子どもの貧困対策など安全安心の拠点という側面も含め、地方創生のための総合的な文脈において、「コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティ（学校を核（エンジン）とした地域づくり）へ」とも言われるようになってきています。

学力、規範意識、体力の向上等の諸課題を学校だけで抱え込まず、家庭や地域に必要な協力を仰ぎ、チームとして協働で対応していくためにも、その前提として、それら諸課題や努力の数々を家庭や地域にも共有していくというプロセスが、今後一層不可欠となり、ひいては地域の将来を支える戦略的な布石となっていくのではないのでしょうか。校長先生方のリーダーシップに期待申し上げます。最後にになりましたが、本会の益々のご発展と皆様方の一層のご活躍を祈念いたします。

27年度年間行事予定

月	日	内容
4	9	役員会・校種別役員会
	11	退職校長「感謝の集い」
	16	代表者会・校種別・広報委員会
5	23	定期総会
	7	役員会・校種別役員会
	12	代表者会・各専門委員会
	14～15	東陸連小理事会
	19	小学校研究委員会
	19～21	全日中理事会・総会
	21	小学校編集委員会
6	21～22	全連小理事会・総会
	26	郡市長会・進路指導委員会
	28	中学校研究委員会
7	9	役員会・校種別役員会
	11	小学校研究委員会
	16	小学校編集委員会
	18	進路指導委員会
	19	東海三県修学旅行委員会

6	23	代表者会・各専門委員会
	25	中学校研究委員会
	1	広報みえ 40号発行
7	2～3	東陸中理事会・石川大会
	7	役員会・校種別役員会
	14	小学校研究委員会
	16	進路指導委員会・小学校編集委員会
	23	小学校研究大会打合せ会
	23～24	全日中理事会・役員研修会
	28	学校経営委員会
8	30	小学校研究大会
	20	中学校研究大会
	25	役員会・学校経営委員会
	27	小学校研究委員会
	8	役員会
9	10	小学校編集委員会
	15	代表者会・校種別代表者会
	17	進路指導委員会
10	24	学校経営委員会
	1	中学校研究委員会
	6	役員会・校種別役員会
	8	小学校編集委員会
	14～16	東陸連小理事会・静岡大会
	16	東海三県修学旅行委員会

10	20	キャリア教育研修会
	21～23	全連小理事会・山口大会
	27	生徒指導実践交流会
11	28～30	全日中理事会・福岡大会
	10	役員会・校種別役員会
12	12	進路指導委員会
	16	小学校編集委員会・中学校研究委員会
	17	代表者会・専門委員会
1	24	小学校研究委員会
	1	広報みえ 41号発行
	4	役員会・校種別役員会
	6	役員会・校種別役員会
	14	代表者会・校種別代表者会
	21～22	東陸連小理事会
	26	広報委員会
2	2	役員会・校種別役員会
	4～5	東陸中理事会
	16～17	全連小理事会
3	18	郡市長会議
	23	代表者会・校種別代表者会
	24	東海三県修学旅行委員会
	1	広報みえ 42号発行
	3	役員会・校種別役員会
4	24	臨時役員会

新任校長の声

子どもの目線に立った学校づくりを

四日市市立小山田小学校
校長 森本裕也



子どもたちと並んで長い道のりを下校すると、新鮮な気づきがあります。道端の草むらに舞う蝶、新緑の茶畑の香り、「お帰り」と優しく迎えてくれる地域の方の笑顔…、これらの刺激一つ一つが、子どもたちの心に豊かに刻まれるのです。

教師生活をスタートした自然豊かな小山田小学校に、再度赴任させていただきました。「先生、出世したな」保護者となった教え子から冷やかされることもありま

す。そんな新米校長として、子どもの目線に立ちたいと、登校時のあ

いさつや授業参観を続けていると、子どもの様々な姿に出会いま

す。ある朝、登校班から大きく遅れて、高学年の女子と一年生が手をつないでとぼとぼと歩いてきました。「この子が遅れてしまうので、他の子に先に行くように言っ

て、二人で来ました」との言葉を聞き、困っている一年生を放っておかない高学年の優しさ、責任感にうれしい気持ちになりました。

ある教室では、一人の男の子が皆の前で自分の作文を発表できずに固まっている場面に立ち会い

ました。担任や周りの友だちの温かい関わりによって、何とか発表することができた彼は、大きな拍手を受けて喜びの涙を流していました。「よかったね。皆も優しいね」と声をかけながら、この出来事が彼にとつての転機になるだろうと感じました。

を話してくれるので、子どものことで情報共有ができます。また、児童集会やPTA総会、職員会議などの校長挨拶でも、できるだけ具体的な子どもの姿を伝えるようにしています。興味をもつて聞いてもらえるよう、ス

ケッチブックに自分でイラストを描いて話すように工夫しています。井田川小学校は、児童数百五十名余の小規模な学校である。私は教諭の頃から子どもたちの生活の場である地域には、子どもたちの

これからの生き方に影響を与える教材(郷財=郷土の財産)がたくさん眠っていると信じ、地域に足を運ぶようにしてきた。自然環境や史跡だけでなく、そこに人の営みがあるかぎり、思いや願いをな

「郷財」を「教材化」するために

鈴鹿市立井田川小学校
校長 高藤富子



「おはようございます。」

地域の見守り隊の方々が随所に立つてくださる通学路を、子どもたちが集まる場所まで、自転車でひた走る。これが私の一日の始まりである。その中で地域の方が、「先生も御苦労さんやなあ。」

と声をかけてくださったり、時には自転車の空気が減っていると家まで空気入れを取りに行ってく

ださったり…、本当にありがたい話を聞くことができる。子どもたちの成長を見ることができたからである。

朝、登校指導で地域を巡り、人々と出会い、いろいろな話を聞いていると、この井田川小学校区にも、実にたくさん「郷財」があると感じている。豊かな自然、東海道沿いの歴史ある史跡…、そしてなにより、井田川小学校の子どもたちのためにと様々な力を貸してく

ださる地域の方々。そういった「郷財」を子どもたちが学ぶ「教材」に変えていく、実に楽しくやがいのある仕事である。そんな醍醐味を若い職員たちも地域に出ることによって、もつともつと感じ取ってもらいたいと願っている。

校長室からの雑感

明和町立明和中学校
校長 三石幸宏



この明和中学校には二十九年前に赴任し、九年間の長きにわたってお世話になって以来、二度目の赴任となりました。二十九年前は全校生徒数が千人を超えていましたが、現在は生徒数七百名、職員数六十一名といった規模になっています。

四月一日の校長としての初出勤の日には職員室に立ち寄り、そこにいる職員に「おはよう。」と声をかけると元気な声で爽やかに挨拶が返ってきました。それから校長室の扉を開けると、ある職員

の等身大に近い写真が貼られた段

ボール製の人形が出迎えてくれました。その人形には「三石校長先生、いらっしやい」と書かれていました。職員の元気な挨拶とユーマアに富んだ歓迎から元気をもらい初日の緊張感が吹き飛びました。それから早、二ヶ月が過ぎようとしています。校長室には初代校長から第十六代前校長までの顔写真が飾られています。その中で五名の校長先生に本校及び他校でお世話になりました。それぞれの先生方の顔を見るたびに、苦勞した時代のことばかりが蘇ってきます。でも、どの校長先生も何があっても泰然自若として、大らかだったのをおぼえています。

四月七日の入学式の式辞で新入生に向けて「不平や不満を言う前に、その置かれた場所で自分らしく生きていけば必ず見守ってくれる仲間や先生がいる。心を落ち着かせて生活していくと幸せになれる。」という意味を込めて「置かれた場所で咲きなさい。」という言葉が贈りました。この言葉は自分自身への言葉でもあります。子ども達の明るい笑顔に元気をもらいながら、明るく前向きな職員と共に、置かれたこの場所で大らかに花を咲かせていきたいと思っています。



**自分を大切に
自分を信じて**

伊賀市立柘植小学校
校長 黒川 昌 吉



校長初任の年度末に東日本大震災が起きました。一週間後に卒業式を控えていました。

日々悲惨を極める被災の状況が明らかになりました。児童の父親が福島に救援活動に出かけるために学校を訪れ、泣き崩れる子どもを抱きしめる姿を見ました。

力を合わせて何とかのりこえようという気持ちで、集会で話をしました。「海の水がどんどん押し寄せてきて全てを流してしまおう映像はこわいけど、目を背けずに見て記憶に刻もう。」と言いました。

でもすぐに、「小学生は映像と現実の区別がつかず、恐怖がトラウマになったり、感情移入するほど無力感を感じて自虐的になったりする。」と聞き、あわてて学校通信を出し直したり、おろおろしている自分がいました。あつという間に、卒業式の日を迎えました。

同じ卒業を目前にして突然に命を奪われた同級生の無念や、家族の悔しさを思いながら、しかしまた、彼らの命の分まで、自分の命を大事にしなごら、おそれずに夢を追いかけていく勇気をもとうと誓い合う式典にしたいと思いましたが、でも、大仰なひとりよがりのメッセージにならないか不安もありました。

そんなとき、修学旅行で訪れた東大阪の歯医者さんから、式場に飾るすてきなバルーンと卒業生一人一人にDVDがおくられて来ました。そこには、「命の尊さ、家族や仲間の大切さ、助け合うこと励まし合うことの意味、当たり前のことなどがどれだけ有り難いことか。自分を大切に自分を信じて夢を追い続けよう。」という言葉が流れていました。

予期せぬ贈り物に子どもたちも保護者たちも教師たちも感激し、卒業の感動が倍になりました。この歯医者こそ、「行列ができる歯

医者西日本一位」のスーパー企業です。顧客と従業員の人権を最も大切にせる企業ゆえの、真心のこもった贈り物でした。以来六年間親交が続き、感動を提供していただいています。

修学旅行

いなへ市立天安中学校
校長 三羽 隆 男



五月の中旬に、本校も修学旅行を実施しました。百五十三名の生徒が「広島・神戸・大阪」の修学旅行に参加をしました。天候にも恵まれ楽しく有意義な修学旅行になりました。

生徒たちは全員参加の修学旅行を目指しました。中には体調不良や学校へ行き渋ってしまう生徒もいます。出発の朝、ある生徒が学校に来ることができなかったの、一時間ほど前から生徒の家に、仲のいい生徒と担任が出迎えに行きました。しかし、出発には間に合わず、その生徒は、本人と保護者

に、夜までには一泊目のホテルに来ることを約束して学校を出発しました。

一泊目の夜、午後十時半ごろに、保護者に連れられ、生徒がホテルに到着し、楽しい修学旅行を実施することができました。

また、体調不良があり修学旅行に参加できない生徒もいました。何とか生徒を修学旅行に参加させたい学級の生徒と担任は、何度となく連絡を取り、三日目には体調も良くなり、USJの活動に参加することができました。

みんなが参加し楽しい修学旅行を実施できたことは、生徒たちにとって学級や三年生の仲間としての心に響く取組でもありました。

原稿募集

会員の皆様の投稿をお待ちしています。なお、内容・字数等につきましては事務局へお問い合わせ下さい。

●「校長会みえ」についてのご意見・ご要望があればお聞かせ下さい。

三重県小中学校校長会
広報委員会

地区校長会だより

度会郡小中学校長会

度会郡校長会は、玉城町、大紀町、南伊勢町、度会町の四町の小中学校十八校の校長からなる組織です。私が、新採のころは四十五校あった学校が、町村合併や児童生徒の減少による統合で郡内の学校が激減してしまいました。現在は、小学校十二校（玉城町四校、大紀町四校、南伊勢町三校、度会町一校）と中学校六校（玉城町一校、大紀町二校、南伊勢町二校、度会町一校）からなります。平坦部の玉城町を除いた三町は、山村・漁村地域で少子高齢化が進み児童生徒数が減少傾向にあり、さらに統合が進む状況にあります。そのような中、度会郡校長会は、「校長としての職能の向上、学校相互の連絡及び教職員の社会的経済的地位の向上を図る。」ことを目的に活動しています。目的達成に向け、小学校部会と中学校部会に分かれ年二回の研修会を行っています。前期研修会（九月初旬）は、主に講演会と各部会に分かれての研修会（情報交換）を行っています。後期研修会（十二月初旬）は、

部会に分かれ各学校の実践交流を行っています。

度会郡が抱える課題の一つに、教職員の高齢化があります。現在度会郡は、管理職・講師・少数職種を除いた教職員数は小中学校合わせて百九十六人です。内五十代が七十九人（四十％）、四十代が六十二人（三十二％）、三十代が四十四人（二十二％）、二十代が十一人（六％）で、郡全体の平均年齢は四十五・六歳です。どの学校も次の時代を担っていく若い教員が少ない現状を抱えています。特に、南伊勢町、大紀町の学校の



中には、伊勢市内から一時間弱の通勤時間を有する学校があり、度会郡への希望者が少ない現状があります。そのような中、中勢地区、北勢地区で新採用になった若い先生が、伊勢市内に戻る前に度会郡に途中下車してくれるのが救いです。そのような若い先生に度会郡にとどまってもらえるよう校長会としても、魅力ある学校づくりを行っていききたいと思えます。

桑名郡市中学校長会

桑名市・桑名郡は、木曾三川の下流に位置し、西に多度山、東に伊勢湾を臨み、山あり川あり海ありと風光明媚な土地です。

春には木曾岬町の鍋田堤や桑名市の九華公園の桜が有名で、花見客で賑わいます。そして地域に根ざした年中行事も多く、春の鎮国守国神社の金魚祭りや多度大社の上げ馬御神事、夏の水郷花火大会や石取祭りと、地域住民にとっては楽しみの行事が続きます。

地域の者は子どもから大人まで伝統に則り脈々と祭りを受け継いでいます。子どもたちは、そんな祭り気質や良い意味での縦社会を経験し、地域の一員として成長していきます。

また近年では、名古屋のベッドタウンとしての新興住宅地もたく

さん造られ、それに伴い公共の文化施設やスポーツ施設などが充実してきました。さらには、一大レジャー施設としての長島リゾートも有名どころです。

そんな「桑名」において、私たち桑名郡市中学校長会は、桑名市と木曾岬町の十中学校の校長で構成しています。毎月一回の定例会では、それぞれの担当からの報告や検討事項、情報交換等と共に、時に教育委員会の方を招いて教育制度や情勢などについての意見交換も行います。昨今のめまぐるしく打ち出される教育施策に対して、教育委員会との連携も深めながら取組を進めています。また、各専門委員会に分かれて、予算要望や研修、特別支援など校長会としての視点で活動をしています。



新年度が始まって、春を満喫する暇もなく真夏日が続く、いつの間にか夏が到来しました。学期末を目前にしてその準備や学習のまとめに慌ただしい日々をお過ごしのことと拝察致します。

三重県小中学校長会広報「みえ」の第40号を発行するにあたり、執筆を依頼させていただいた先生方には、年度始の大変お忙しい中、快くお引き受けいただき、誠にありがとうございました。

さて、広報委員会では、今年度も年3回の広報を発行します。よりよい情報の提供に努めるとともに、会員相互の交流を広げ、親しめる紙面づくりをめざすことで、連携意識の更なる向上を図っていきたくと思えます。

今、学校現場では、全国学力・学習状況調査の自校採点をもとにした改善への取組や、新たな人事評価制度の試行に伴う期首面談などが始まっているところでしょうか、このような取組が最終的には、みえの子どもたちの生きる力の育成につながるものでなければと考えます。この「みえ」においても情報交流ができれば幸いです。ご支援ご協力をお願いいたします。

編集後記